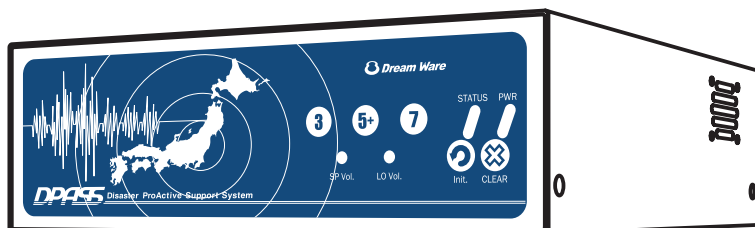


DPASS

Disaster ProActive Support System

取扱説明書

- SH500-J -
(Ver1.01)



本製品は緊急地震速報を受信し、各地での震度、到達時間を瞬時に予測演算し報知を行う専用端末です。

緊急地震速報のシステム上、報知が実際の地震到達に間に合わなかったり、予測数値に誤差が生じたり、また誤報を受信する場合がありますので、予めご了承ください。

※接続にあたって必要となりますネットワーク環境、及びネットワーク機器類(ルーター/スイッチ/HUB等)はお客様にてご用意ください。

目次

目次	2
◆ 第1章 安全上のご注意	
・安全にお使いいただくために	4
・この取扱説明書の表記について	5
◆ 第2章 ご利用になる前に	
・緊急地震速報の種類	13
・緊急地震速報とは／注意事項	15
・緊急地震速報の発信条件／必要となるネットワーク環境の条件	16
・震度と揺れの状況（概要）	17
・日ごろからの対策／気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明・実際に地震が発生した場合の行動要領	18
・梱包内容の確認	19
◆ 第3章 各部の名称と機能	
・各部の名称（前面）	21
・各部の名称（側面）／各部の名称（背面1）	22
・各部の名称（背面2）	24
◆ 第4章 機器の設置と接続／動作確認	
・セットアップを行う前に／機器のネットワーク初期設定	25
・機器の設置方法	26
・機器の接続方法	27
・動作の確認方法	28
◆ 第5章 機器の操作と機能	
・ボタン操作方法	29
・外部接続端子	30
・出力タイミングチャート	31

◆ 第6章 受信端末の設定情報について

・設定内容・用語解説	
受信機基本設定／報知アナウンス・サウンド発報について	32
出力設定情報	33
冒頭報知アナウンス形式	34
冒頭報知アナウンス発報例	35
避難誘導アナウンス (43 種類)／DO 出力時間範囲／DO 出力ディレイ時間範囲	36
・津波エリア情報地域コード一覧	37

◆ 第7章 困ったときは

・トラブルシューティング	38
--------------------	----

◆ 仕様

	39
--	----

◆ 本書について

	40
--	----

安全上のご注意

安全にお使いいただくために

本取扱説明書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本取扱説明書を熟読してください。特に「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、本取扱説明書は本製品を使用中いつでも、ご覧になれるよう大切に保管してください。

◆ 保証書について

1. 保証書は、必ず必要事項を記入し内容をお読みください。その後、大切に保管してください。
2. 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
3. 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理または交換いたします。
4. 保証期間内であっても、保証書の提示がない場合や天災あるいは無理な使用による故障の場合などには修理交換いたしかねますこと、ご了承ください。(詳しくは、別途付属保証書の保証規定をご覧ください。)

◆ 本製品の用途について

本製品は、一般事務用、家庭用などの一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する、重要な危険性を伴う用途を言います。

- 原子力施設における核反応制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療機器など。

◆ 注意

1. 本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品をラジオやテレビ受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。
2. 本製品は、取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。
3. 本製品には有寿命部品が含まれています。
4. 製品に使用しているアルミ電解コンデンサーは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
5. 部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。(消耗品は、お客様ご自身で新品を購入し、交換していただきます)
6. 本製品の使用環境は、温度0～40℃(動作時)/-10～60℃(非動作時)・湿度10～80%RH(ただし、結露しないこと)です。
7. 本製品は、日本国内での使用を前提に製造されています。海外では使用できません。
8. 本製品の構成部品(プリント基板など)には、微量の重金属(鉛、クロム、水銀)や化学物質(アンチモン、シアン)が含有されています。
9. 本製品の電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

■ この取扱説明書の表記について

◆ 電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されているACアダプターの電源プラグは「平行2極プラグ」です。

本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行2極プラグ(125V15A)用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

◆ 安全にお使いいただくための絵記号について

本取扱説明書では、いろいろな絵記号を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、ご利用のお客様自身や他の人々に加えられる恐れのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを表しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表しています。

また、危害の内容がどのようなものを表わすために、前ページの絵記号と同時に次の記号を使っています。



⚠️で表した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。その横には、具体的な警告内容が示されています。



🚫で表した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。



ⓘで表した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。

◆ 異常や故障のとき



警告

.....

本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなったことを確認して、お問合せ窓口にご連絡ください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

.....

本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなったことを確認して、ご連絡ください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

.....



ACアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

◆ 設置されるとき



警告



使用できる電源は交流 100V です。
それ以外の電圧では使用しないでください。
電圧の大きさにより内部が過熱したり、劣化して感電・火災の原因になります。



同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。
コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。
口に入れたり、頭にかぶったりすると窒息の原因となります。



外部制御機器と接続される時は、本取扱説明書および外部制御機器の取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。
また、本体および外部制御機器が故障する原因となります。

注意



振動している場所や傾いた場所などの不安定な場所に置かないでください。
本製品が落下して、けがの原因となります。

本製品を移動する場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。

ACアダプターの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

警告



濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



ACアダプターの電源プラグにドライバーなどの金属を近づけないでください。
感電・火災の原因となります。



ACアダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。
感電・火災もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- ・ 絶対に分解しないでください。
- ・ 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所で使用しないでください。
- ・ 水に濡らしたり、濡れた手で触れないでください。
- ・ 布団の上や中など熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしないでください。
- ・ 上に物を置かないでください。
- ・ 必ず付属のコードセット（電源コード）を使ってください。
- ・ 他の機器に使用しないでください。



マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、本機器の近くで使わないでください。
本機器の中に入って引火すると火災の原因となります。



浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所では使用しないでください。

電気絶縁の低下によって感電・火災の原因となります。

本体内部にほこりがたまることによって、精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因となります。



本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。



コネクタなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



取り外したキャップなどの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れないでください。

感電・火災の原因となります。

雷が鳴り出しそうなときは、ACアダプターやケーブル類を取り外し、雷が鳴り止むまで取り付けしないでください。



添付もしくは指定された物以外のACアダプターの電源コードを本製品に使ったり、添付のACアダプターや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプター本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

電源コードの芯線が露出したり脱線したりして、感電・火災の原因となります。



本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。

感電・火災の原因になります。修理や点検などが必要な場合は、ご購入された販売元にご連絡ください。



ACアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

注意



本製品の上に重いものを置かないでください。
故障・けがの原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



本製品を直射日光が当たる場所、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。



使用中の本体やACアダプターを布などで覆ったり、包んだりしないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

警告



A Cアダプターや電源プラグはコンセントから時々抜いて、コンセントの接続部分およびA Cアダプターと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると、感電・火災の原因になります。

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・ 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認してから差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- ・ グラグラしないコンセントを使ってください。



本製品の各種端子には弊社または販売元が指定したケーブル、コネクタ以外の物を差し込んだり、挿入しないでください。

故障、感電・火災の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、感電・火災の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



液晶ディスプレイ部の破損

液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがををするおそれがあります。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブルについて

- ・ ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。
- ・ 足を引っかけると、けがや接続機器の故障の原因となります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ・ ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響をおよぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合は、次のようにしてください。

- ・ テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- ・ コンセントを別にする。



心臓ペースメーカーを装着時の使用

心臓ペースメーカーの装着部分から 22cm 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

◆ その他



警告



本製品の廃棄については、一般廃棄物の扱いとなります。

各地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」の規則を受けます。
一般のゴミと一緒に火中に投げると破裂のおそれがあります。

緊急地震速報とは

■ 緊急地震速報の種類

気象庁が取り扱っている緊急地震速報には「一般利用者向け」と「高度利用者向け」の2種類があります。「高度利用者向け」は、大抵のものは利用者側の端末において設定を行ったうえで豊富な情報が提供され、活用の仕方によってはより高い防災効果を生みます。「一般利用者向け」は速報を十分周知していない方にも適切な行動がとれるよう配慮された、最低限の情報のみを提供します。

1. 高度利用者向け緊急地震速報

「高度利用者向け」緊急地震速報は、気象庁の多機能型地震計の1つ以上の観測点においてP波またはS波の振幅が100ガル以上となるか、もしくは解析によりマグニチュード3.5以上または最大震度3以上と推定される場合に、地震の発生時刻、震源の推定値の速報を行っています。

「高度利用者向け」情報は、まず地震が発生した乙をいち早く知らせるための第1報を優先的に発表し、その後2つ以上の観測点で、地震波が観測されると、さらに解析を行い第2報・第3報…と情報を更新していきます。更新を重ね、予測の精度が安定したと判断されれば、最終報を発表し、これ以降はその地震の速報の発表を終了します。あらかじめ規定されている時間内に2つ以上の観測点で地震波が観測されなかった場合は、ノイズ(故障や誤報)と判断してキャンセル報を発表します。第1報では非常に大きな誤差が含まれ、雷などによる誤報の可能性も高い。第2報・第3報…が発表され、時間が経過するに従い精度が上がっていきます。

2. 一般利用者向け緊急地震速報

テレビ、ラジオ、集客施設での館内放送などによる公衆への提供は安易に実施すると混乱を招く恐れがあるため、情報利活用のある方、情報の特性の周知などが十分に重ねられました。

「一般利用者向け」速報においては、地震波が2つ以上の地震観測点、で観測され、最大震度5弱以上と推定された場合に、地震の発生時刻・震源の推定値・震央の地名・震度4以上と推定される地域名を速報しています。その後、さらなる解析により震度3以下と予測されていた地域が震度5弱以上と予測された場合に続報を発表します。続報では、新たに震度5弱以上及び震度4が予測された地域を発表します。また、続報は地震検知から60秒以内のものに対して行われます。大きな誤差が含まれ、雷などによる誤報の可能性も高くなります。第2報・第3報…が発表され、時間が経過するに従い精度が上がっていきます。

3. 緊急地震速報一般利用者向け

テレビ、ラジオ、集客施設での館内放送などによる公衆への提供は安易に実施すると混乱を招く恐れがあるため、情報利活用のあり方、情報の特性の周知などが十分に重ねられた。

「一般向け」速報においては、地震波が2つ以上の地震観測点で観測され、最大震度5弱以上と推定された場合に、地震の発生時刻、震源の推定値、震央の地名、震度4以上と推定される地域名を速報している。その後、さらなる解析により震度3以下と予測されていた地域が震度5弱以上と予測された場合に、続報を発表する。続報では、新たに震度5弱以上及び震度4が予測された地域を発表する。また、続報は地震検知から60秒以内のものに対して行われる。

4. 「高度利用者向け」と「一般向け」の違い

「高度利用者向け」と「一般向け」の大きな違いは、以下の2点が指摘できる。

「高度利用者向け」は、実際に配信された緊急地震速報を利用して、ユーザーの希望に応じて、例えば予測震度3以上（震度2では、地震の揺れを感知できない場合がある）で発報させることによって、実戦的な地震防災のリハーサルまたは訓練の機会を提供することが可能である。これに対して「一般向け」は、地震被害が予想される「警報」の場合のみに発報されるため、緊急地震速報に接する機会は極めて稀である。

緊急地震速報の技術的限界から誤差は避けられないが、「予測震度3」だと分かった場合には、「①実際の震度は震度7ではない、②大きな揺れも来ない、③大きな被害にはならない」ことが分かる。これが、高度利用者向け緊急地震速報の「安心」効果の一つであり、「一般向け」緊急地震速報「警報」にはない効果である。

緊急地震速報説明
※気象庁ホームページ緊急地震速報参照
<http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/shikumi/shousai.html#2>

緊急地震速報の仕組み

1. 地震の揺れの仕組み
地震が発生するとP波（初期微動）およびS波（主要動）と呼ばれる2つの波が地中を伝播します。この波の伝播速度はP波のほうがS波より速いため、初めにP波が伝わり、それから「主要動」と呼ばれる大きな揺れをもたらすS波が伝わってきます。
2. 「緊急地震速報（予報）」システム
日本全国にある約1,000ヵ所の地震計を利用し、地震発生時には震源に近い観測点（地震計）でこのP波をとらえます。そのデータから直ちに震源（緯度・経度）、地震の規模（マグニチュード）を推定し、これを情報として迅速に利用者に提供するシステムを「緊急地震速報」と言います。
3. 緊急地震速報（予報）報知
本製品はこの情報を受信し、設置している地点の各種情報（経度、緯度、地盤増幅度※1）をもとに実際に起こる地震の大きさ（震度）と到達までの時間（猶予時間）を予測演算し予報を行います。
※1 地盤増幅度 … 表層地盤の構造（硬さ）をもとに揺れの伝わる割合を表わすものです。
4. 緊急地震速報（警報）報知
地震波が2点以上の地震観測点で観測され、強い揺れ（震度5弱以上または長周期地震動階級3以上）が予想される地域及び震度4が予想される地域に（全国を約200地域に分割）発表される地震速報です。地震警報の発報設定がONの場合は、発報設定した震度に満たない場合も地震警報を報知します。

注意事項

緊急地震速報（予報）の原理的限界等のため、情報のご利用に当っては、次のようなおそれがありますので、事前の十分なご理解が不可欠です。予めご了承ください。

1. 震度、到達猶予時間などの予測演算数値には誤差があります。
2. 緊急地震速報の報知から大きな揺れが到達するまでの時間は、長くても十数秒から数十秒と極めて短い時間です。
3. 震源に近いところでは地震到達までに緊急地震速報が間に合わないことがあります。（直下型）
4. ごく短い時間のデータだけを使った情報であることから、予測結果に誤差を伴う場合があります。（報知しない場合があります。）
5. 震源の深さが150km以上深い場合（深発地震）は予測結果に大きな誤差を含む場合があります。（報知しない場合があります。）
6. 短い間隔で複数の地震が発生した場合、震源の特定が困難となり予測結果に大きな誤差を含んだり予測できない場合があります。（複数地震の同時発生、報知しない場合があります。）
7. 落雷、事故、機器の故障等により、誤報を発生する可能性があります。
8. 気象庁が実施する訓練報に関してはお客様自身が訓練の内容および配信日時等を確認の上対応してください。
9. 緊急地震速報は、サービス品質および、正確性（地震発生時に必ず情報が伝達および、報知されること、情報の伝達が地震の到達の前に必ず間に合うこと、誤報、誤差が生じないことを含む）について一切保証されません。
10. 緊急地震速報について十分理解し、日頃から、地震を想定した行動マニュアルの整備や、定期的な避難・防災訓練の実施に努めてください。

■ 緊急地震速報の発信条件

1. 気象庁の多機能型地震計設置のいずれかの観測点において、P波またはS波の振幅が100ガル以上となった場合。(※1)
2. 解析の結果、震源・マグニチュード・各地の予測震度が求まり、そのマグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合。なお、この基準は変更する場合があります。

※1…1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒～10数秒程度でキャンセル報(予報の取消し)を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度がかかることがあります。

■ 必要ネットワークについて

接続にあたって必要となるネットワーク環境、およびネットワーク機器類(ルーター/スイッチ/HUB等)はお客様にてご用意ください。

1. インターネット常時接続回線が必要です。
(ADSL、FTTH、CATVなど、ダイヤルアップ以外)
2. ご使用のLAN環境でのIPアドレスの取得が自動になっていること。
(DHCP有効設定)
3. ご使用のプロバイダーにてTCP「9001」「9003」ポートが開放されていること。
(上記のポート番号は緊急地震速報配信サーバーとの通信に利用されます。)
4. その他、ファイヤーウォールなどの設定をしていないこと。



本製品は、お客様の地震による被害を極力少なくするためのものであり、お客様の財産や命を守るためのものではありません。実際に地震が発生した時のために、避難経路などを確認し、日頃から地震対策を十分に行ってください。



緊急地震速報の受信は、お客様自身の自己責任でなされるものであり、弊社および販売元は、使用によって発生したいかなる損害(速報内容の誤報により生じた損害を含み、直接損害・間接損害の別を問わない)やその修理費等に関して、一切の責任を負いません。

震度と揺れ等の状況（概要）

震度 0	人は揺れを感じない。
震度 1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
震度 2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
震度 3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
震度 4	<ul style="list-style-type: none">・殆どの人が驚く。・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。・座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度 5 弱	<ul style="list-style-type: none">・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。・棚にある食器類や本が落ちる事がある。・固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度 5 強	<ul style="list-style-type: none">・物につかまらなると歩くことが難しい。・棚にある食器類や本が落ちる事が多くなる。・固定していない家具が倒れることがある。・補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度 6 弱	<ul style="list-style-type: none">・立っていることが困難になる。・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。・耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある、倒れるものもある。
震度 6 強	<ul style="list-style-type: none">・はわないと動くことができない。飛ばされることもある。・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。・耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度 7	<ul style="list-style-type: none">・耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。・耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

日ごろからの対策

地震は、いつどのような規模で起こるかわかりません。

せっかくの緊急地震速報も、事前の準備ができていなければ利用価値が半減してしまいますので以下を参考に、お客様自身で事前の準備を十分に行ってください。

1. 家具が倒れたり、上にあるものが落ちたりすると、けがをするばかりでなく、避難時の障害にもなります。市販の固定器具などを利用し、家具の固定・転倒防止をしておきましょう。また、棚の上のものは容易に落下しないようにしておきましょう。
2. 寝室など常時いるような場所は、倒れやすいものを置かず、避難経路を確認しておき、非常時はすぐに避難できるようにしておきましょう。また、近くに靴やスリッパを常備しておきましょう。
3. 非常時の用意
消火器・ハンマー等、避難経路の確保に必要なものは、すぐに取り出せる所にひとまとめにしておきましょう。
4. 非常時の持ち出し品の用意
食料品関係・貴重品・衣類・靴・防災用品・照明器具・医療用品・携帯電話・簡易充電器なども、すぐに持ち出せるようにまとめておきましょう。
5. 家族で話し合いをして、非常時の避難経路や非難場所を決めておきましょう。

気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明

<迅速に発表する津波警報・注意報とその限界について>

気象庁の津波警報・注意報は、地震発生後数分程度で得られる地震の発生位置とマグニチュードから津波を予測して発表します。いっぽう、同じ震源、同じマグニチュードであっても、断層の傾きや断層運動の方向などにより、津波の規模が大きく変わりますが、断層に関する詳細は、10分間程度以上の地震波を分析して初めて分かるものなのです。そのため、気象庁では、津波を発生させやすい傾斜角45°の逆断層を想定した津波の数値シミュレーションを多数行い、その結果をデータベース化しておき、震源位置とマグニチュードからデータベースを検索して、津波警報・注意報を発表することとしています。

<逐次得られる観測データによる津波警報・注意報の切り替えについて>

気象庁では、津波警報・注意報を発表した後も分析を続け、断層についての詳細が分かった時点で津波を予測し直します。その結果、最初の警報・注意報よりも津波が小さい、あるいは発生しない可能性が高いことが確認できれば、警報・注意報の切り替えや解除を行います（地震のメカニズムを活用した、津波警報・注意報の切替・解除）。また、実際に津波が観測された場合など、逐次得られる観測データに基づいて、津波警報・注意報の更新を行います。

■ 実際に地震が発生した場合の行動要領

◆ 緊急地震速報の受信時、および地震発生時

まずは身の安全の確保	周りの人に地震が来ることを知らせながら、倒れやすい家具などから離れ、丈夫なテーブル・机の下に隠れてください。
火元の始末 (そばに居る場合)	ガスコンロなどの火を止める。また、電熱ヒーターなどの熱源となる機器の電源も切ってください。火元（暖房・調理器具など）から離れている場合は、無理に近づくとかえって危険が従う（熱くなった油やお湯などをかぶって火傷をする）ので、揺れが収まってから消すようにしましょう。

◆ 地震発生後（揺れが収まったら）

避難経路 の確保	避難の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスの元栓を閉め、ブレーカーも切ってください。 ・家に避難先や安否情報をメモしたものを残していくようにしてください。 ・避難は、必ず徒歩で行い、車などの使用を避けてください。 ・割れたガラスなどに注意してください。また、漏電・ガス漏れにも注意してください。
	火の始末	<ul style="list-style-type: none"> ・火が出ているのであれば、すぐに初期消火してください。 ・一人で手に負えないようであれば、すぐに近所に協力を求めるようにしてください。

◆ 正しい情報収集と余震・津波への対応

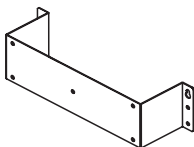
正しい情報収集	デマ情報に惑わされず、テレビ・ラジオ等で正しい情報を得て、的確に行動するようにしてください。
余震に注意	比較的大きな地震が発生すると、その近くで再び地震が発生します。この地震のことを「余震」と言います。大きな地震が収まったからといって、倒れやすいもののそばに近寄りたりしないでください。
津波に注意	震源が海底・海岸沿いの場合、津波が発生する可能性があります。海岸に近い場所にいる場合は、揺れが収まった後にできるだけ高い場所（高台や鉄筋の建物の4階以上のフロアなど）に避難して下さい。テレビやラジオの情報に注視して的確に行動して下さい。予想を超える大きな津波が来る場合があります。

梱包内容の確認

開封時に下記梱包品がすべて揃っているかを確認してください。



●本体 x 1台



●掛け用ブラケット x 1個



●滑り止めゴム x 4個



●ブラケット固定用ねじ x 5本



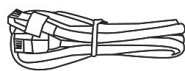
●壁掛け用ねじ x 4本



●バーコードラベル x 4枚



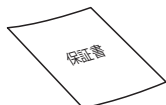
●ACアダプター x 1個



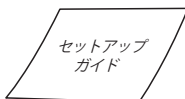
●LANケーブル2m x 1本



●コード固定具(樹脂製) x 3個

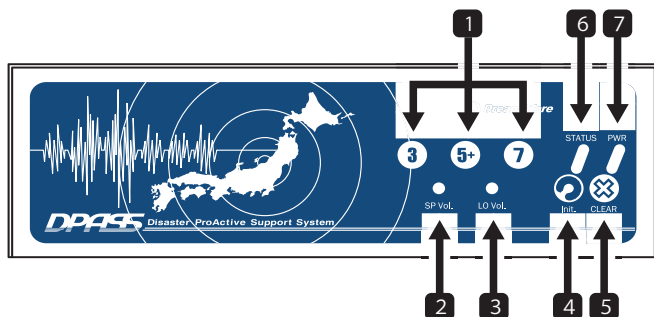


●保証書 x 1枚



●セットアップガイド x 1枚

■ 各部の名称 (前面)

**1** テストボタン

本体の動作確認用ボタンです。(ボタンで報知動作確認ができます。)
3「震度3」、5+「震度5強」、7「震度7」

2 スピーカー音量調節 (SP Vol.)

内蔵スピーカーの音量を調節します。

3 ラインアウト音量調節 (LO Vol.)

LINE-OUT 音量を調節します。(外部への音量調節放送設備など)

4 配信サーバー初期化 (Init.) (端末初期化ボタン)

接続中の緊急地震速報配信サーバーの情報を初期化します。
※異常通知又は情報変更がない限り、押さないください。

5 CLEAR ボタン

地震報知動作以外、全ての動作（接点含む）をクリアします。

6 動作表示ランプ (STATUS ランプ：緑)

緊急地震速報配信サーバーとの接続状況（通信状況）表示します。(ネットワーク異常時点滅)

7 電源ランプ (PWR：赤)

電源 ON 時は点灯、ハードウェア障害時に点滅します。

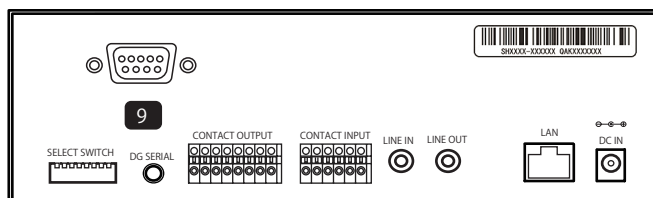
■ 各部の名称 (側面)



8 内蔵スピーカー

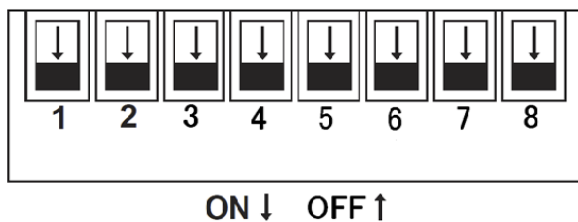
報知音を出します。(2つのスピーカーが内蔵されています。)

■ 各部の名称 (背面 1)

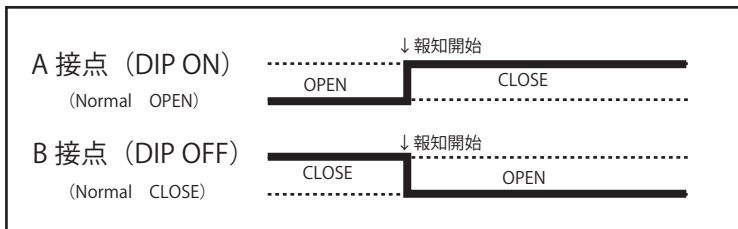


9 DIP スイッチ

接点出力方式設定、ネットワーク初期化、固定 IP 設定



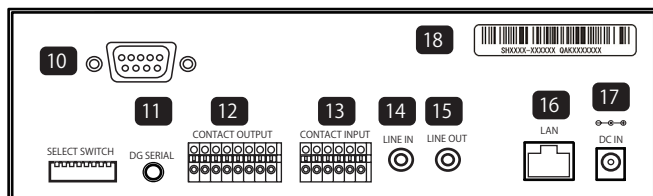
- ① 接点出力方式設定 (DO 別リバース設定)
 DIP スイッチ 1 番を OFF にしますと DO1 の接点出力は A 接点方式から B 接点方式に切り替わります。(「2 番は DO2」、「3 番は DO3」、「4 番は DO4」同様)



- ② 通常モード (5 番 ON、6 番 ON、7 番 ON、8 番 ON)
 本体の通常モードとして動作します。
 ※ 5 番、6 番の設定変更は行わないでください。正常動作しなくなります
- ③ ネットワーク設定 (7 番)
 ア) 起動中 (通常起動中)
 7 番上げ下げ (ON ⇒ OFF ⇒ ON) : ネットワーク情報が工場出荷初期値に戻ります。(DHCP 設定に変更し、再起動します。)
- イ) 固定 IP 環境での端末 IP 設定
 7 番上げ (ON ⇒ OFF) : 電源を落として DIP スイッチ 7 番を OFF にします。この状態で電源を入れますと端末のネットワーク情報が「192.168.100.100」で起動します。DHCP 機能が無いネットワーク環境ではパソコンから SH500-J 専用 IP 設定アプリを利用して端末の IP 設定を行うことが可能です。
- ④ 使用不可 (8 番)
 必ず、8 番は ON の状態にしてください。
 ※ OFF にした場合は、通常動作を行いません。

※ DIP スイッチの基本設定は全て ON (下げる) 状態になっています。

■ 各部の名称 (背面 2)



10 診断用コネクタ (UD SERIAL) 11 診断用コネクタ (DG SERIAL)

端末診断のための端子です。(お客様ではご利用できません)
※診断用コネクタにイヤフォン等を挿入しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

12 外部接点出力端子 (CONTACT OUTPUT) 4チャンネル無電圧ループ

外部制御をする機器を接続します。

13 外部接点入力端子 (CONTACT INPUT) 3チャンネル無電圧ループ

外部機器から機器を制御する際に接続します。

14 LINE IN コネクタ (音声スルー機能)

外部機器からの音声を入力します。入力された音声は LINE OUT から出力されます。

15 LINE OUT コネクタ

端末が発報する音声を外部機器へ出力します。また 14 で入力された音声を出力します。

16 LAN コネクタ

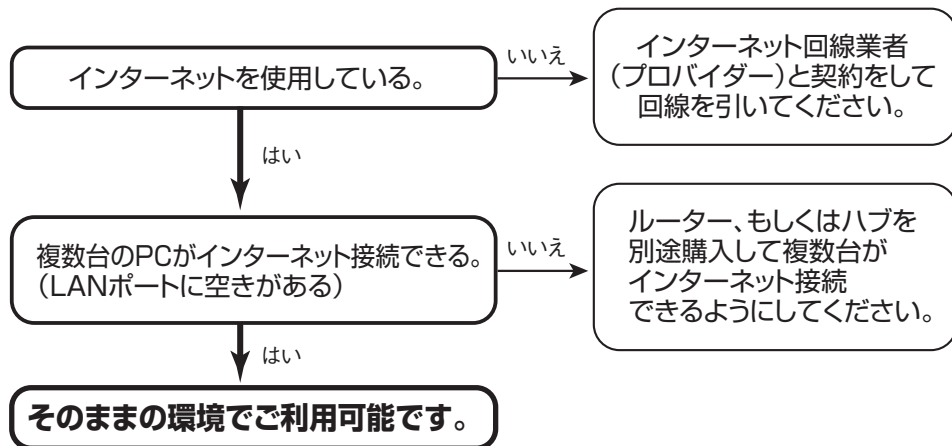
LAN ケーブルに接続します。

17 DC IN ピンジャック

電源供給のための付属の AC アダプターを接続します。

18 製品バーコードラベル

■ セットアップを行う前に



設置するネットワークには、以下の条件が必要になります。ファイヤーウォールを設定している場合はご注意ください。

1. インターネット常時接続環境
2. DHCPによるLAN-IP自動取得環境（固定IP環境でも使用できますが、別途本製品の設定が必要になります。）
3. LAN側からWAN側に対してTCP9001番・9003番ポートの開放
4. DNSが利用できる環境

■ 機器のネットワーク初期設定

※本機器の工場出荷時のIP設定は自動取得（DHCP）になっておりますので、DHCP環境でのご利用の場合はIPアドレスにつきまして何も設定する必要はありません。LANケーブルを接続し、ACアダプターを接続すると端末は自動的にIPを取得します。IP自動取得完了後には起動完了としてPOWERとSTATUSのランプが点灯になります。

◆ 固定IPで利用する場合（DHCPで利用しない場合）

本機器のネットワーク基本設定はDHCPになります。DHCPではない固定IPご利用の場合は当社までご連絡ください。

機器の設置方法

◆ 接続

1. すでにお客様が用意されたルーターまたはハブと本体を、LANケーブルで接続してください。
※必ずLANケーブルを接続してから電源を接続するようにしてください。
2. 付属のACアダプターを接続してください。
3. 電源を入れて3分以内に緑のLEDランプが点灯にならない場合、お客様のネットワーク環境をご確認の上、ご購入された販売店のお問い合わせ窓口にご連絡ください。

◆ 設置

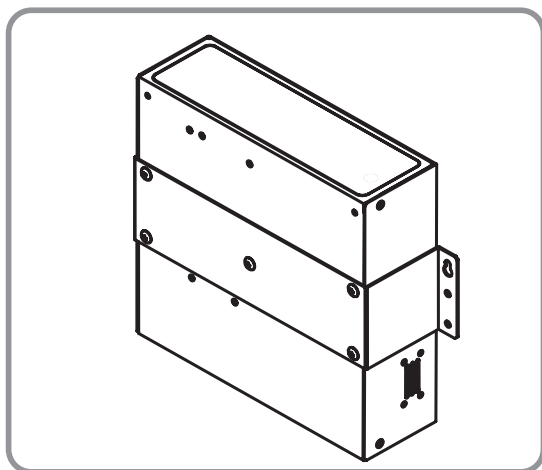
付属の滑り止めゴム足、もしくは壁掛け用ブラケットを使って設置してください。

● ゴム足を利用

1. 本体の下部に滑り止め用のゴム足を4ヶ所に付けます。
2. 設置する場所へ置きます。

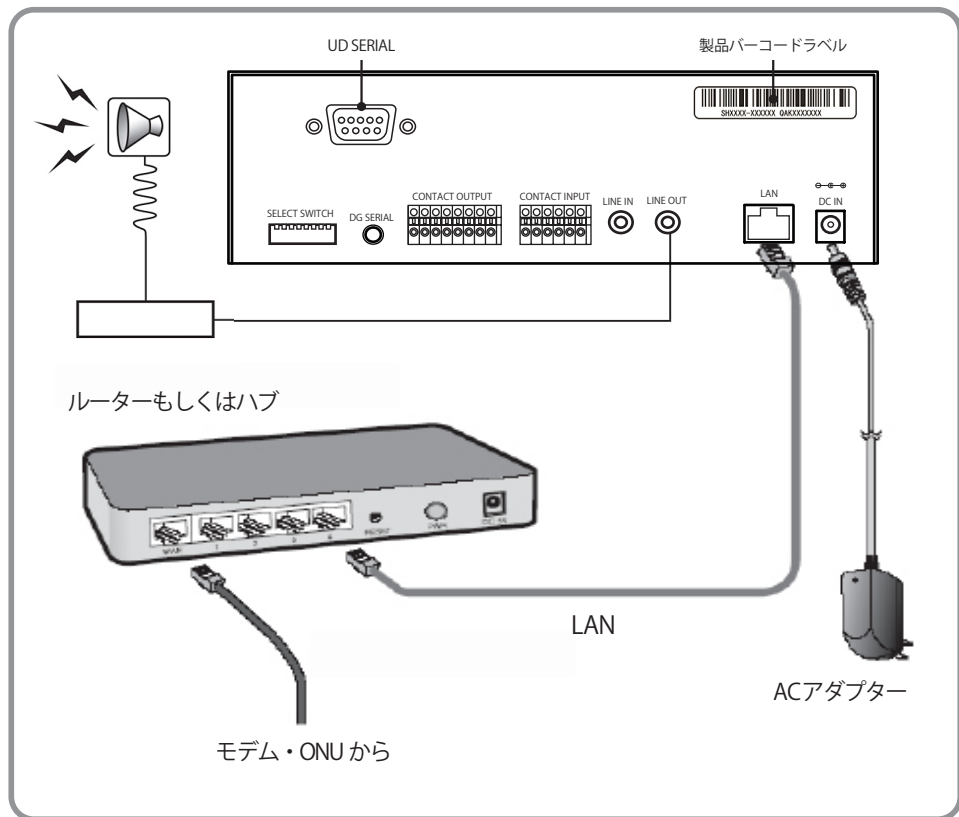
● 壁掛けブラケットを利用

1. 付属のブラケット固定用ねじで本体にブラケットを固定します。
 2. 任意の場所に、付属品の壁掛け用ねじで固定します。
- 誘導雷対策として、本体に接続するすべてのケーブル等にアレスターや雷防止タップ等の雷サージ対策を行ってください。



壁掛け用ブラケットの固定画面

機器の接続方法



※外部入力・出力を利用し別の機器と連携する際にはご購入された販売元にお問い合わせください。

動作の確認方法

- 端末登録の手続きが完了しましたら、前ページの設置方法に従ってLANケーブルを接続した後、ACアダプターをコンセントに接続してください。
- 電源投入後、次のようなランプの流れを確認してください。

 緑ランプ:STATUSランプ
  赤ランプ:PWRランプ
  消灯状態

動作区分	ランプ状態	動作説明
端末起動 1	赤ランプ：点滅 緑ランプ：消灯	①赤ランプ点滅：機器の起動状況確認中 ②緑ランプ消灯：ブート中
端末起動 2	赤ランプ：点滅 緑ランプ：点滅	①赤ランプ点滅：機器の起動状況確認中 ②緑ランプ点滅：ネットワーク状況確認中
端末起動 3	赤ランプ：点灯 緑ランプ：点滅	①赤ランプ点灯：機器の起動確認完了、正常起動状態 ②緑ランプ点滅：ネットワーク状況を確認中
端末正常起動完了	赤ランプ：点灯 緑ランプ：点灯	①赤ランプ点灯：機器の起動確認完了、正常起動状態 ②緑ランプ点滅：ネットワーク確認完了、正常起動状態
ネットワーク エラー	赤ランプ：点灯 緑ランプ：点滅 (1秒で2回点滅)	①赤ランプ点灯：機器の起動確認完了、正常起動状態 ②緑ランプ点滅：ネットワーク異常確認 …※ 1
	赤ランプ：点灯 緑ランプ：点滅 (1秒で3回点滅)	①赤ランプ点灯：機器の起動確認完了、正常起動状態 ②緑ランプ点滅：ネットワーク確認完了、未登録端末のため配信サーバーと接続不可 …※ 2 ※販売代理店へご連絡ください。
地震受信報知中	赤ランプ：点灯 緑ランプ：点滅 (1秒で5回点滅)	①赤ランプ点灯：機器の起動確認完了、正常起動状態 ②緑ランプ点滅：ネットワーク確認完了、正常起動状態 ※受信情報（緊急地震速報）に対して報知中

※消灯：ブート中 点滅：動作確認中・異常動作 点灯：正常動作

電源が入ると、動作表示ランプ（STATUS）点滅からネットワークエラーがない限り、約3分以内に動作表示ランプ（STATUS）が点灯に変わります。
ここまで正常に立ち上がると機器は問題なく動作しています。

※ 1 …お客様のネットワーク環境のチェックが必要となります。（ルーターやLANケーブル等のネットワーク機器の接続状態及び設定内容をご確認ください。）

※ 2 …お客様の端末登録手続きが完了していません。端末の登録手続きを行ってください。すでに登録手続きを済ませられた方は登録作業中ですので、あと2～3日お待ちください。表示内容が上記と違う場合は、大変申し訳ございませんが、ご購入された販売元へお問い合わせください。

■ ボタン操作方法

◆ ボタン操作

本機器の前面には5つのボタンがあります。



1 「震度3」のTESTボタン

約3秒間長押しすると「震度3」の報知動作を行います。

2 「震度5強」のTESTボタン

約3秒間長押しすると「震度5強」の報知動作を行います。

3 「震度7」のTESTボタン

約3秒間長押しすると「震度7」の報知動作を行います。

- ※ TESTボタン報知中地震速報が来た場合は地震速報を優先に報知動作を切り替えます。
- ※ TESTボタン報知途中、CLEARボタンを長押しすると音声及び接点出力は停止されます。



4 Init. ボタン

接続中の緊急地震速報配信サーバーの情報を初期化します。

※端末が再起動するため、緊急地震速報の受信が1～2分ほど停止されます。通常は使用しない機能ですので、販売店の指示があった場合のみ操作してください。操作にはご注意ください。

5 CLEAR ボタン

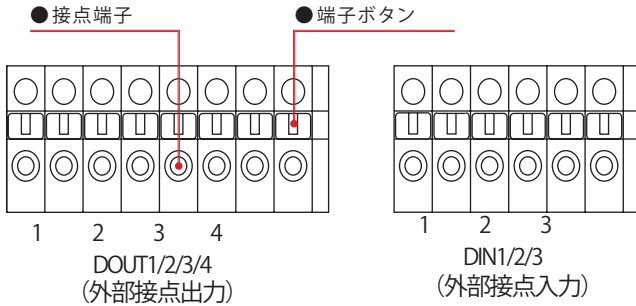
約3秒間長押しすると、緊急地震速報報知動作以外の動作を解除します。(接点出力、動作確認テスト、津波報知)

外部接続端子

館内放送アンプ等、外部連動機器をつなげるための端子です。

※ご購入された販売店の指定業者の指示なく外部接続端子に接続しないでください。

※ DO/DI の端子は、スクリューレスプッシュ式ですので、接続の際には電線の被覆剥いてそのまま挿入してください。最後まで入らない場合は、各端子のボタンを軽く押しして挿入してください。



※無電圧ループ接点になっています。定格電圧 (38V) を超える電圧は与えないでください。故障の原因となります。

※接続可能電線は、AWG26～20の範囲でご使用ください。電線被覆剥きしろは、8～9mmです。

◆ 出力

・外部接点出力 DOUT(DO1/2/3/4) は 4 チャンネル、無電圧ループ出力です。

※ DO 端子に誘導性負荷 (モーターや機械式リレーなど) を直接接続する場合は十分な逆起電力対策・サージ吸収対策を講じてください。

(接点抵抗値は、OPEN : 600 M Ω 以上 / CLOSE : 0.7 Ω 以下です。)

・接点端子の動作タイミングは報知震度設定・ディレイ・AF 連動・連動・時間設定・津波など設定により開始タイミング、終了タイミング設定ができます。

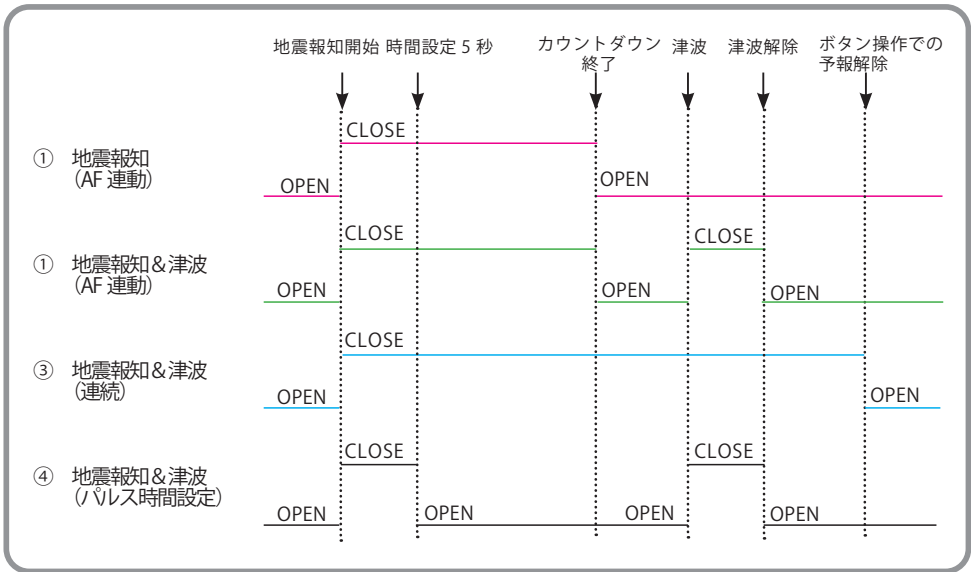
(P.53 のタイミングチャートをご参照ください。)

※連続の場合は地震報知後に解除 (ボタン解除・気象庁からの誤報報知) するまで ON (A 接点 : CLOSE、B 接点 : OPEN) のまま継続します。

◆ 入力

・外部接点入力 DIN(DI1/2/3) は 3 チャンネル、無電圧ループ出力です。

・OPEN 時、3.6V～4.0V の電圧がでています。CLOSE 時約 5mA の電流が流れます。接続回路の抵抗は 50 Ω 以下に収まるようにしてください。



— 外部接続端子出力タイミングチャート —

設定内容・用語解説（ご導入時の設定及び設定変更は担当した取扱い店にご依頼ください）

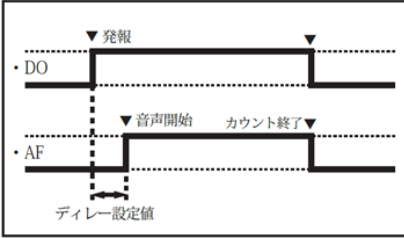
◆ 受信機基本設定

設定震度	震度 1～4、5 弱、5 強、6 弱、6 強、7 までの設定が可能
確からしさ	気象庁から配信される電文の観測点数情報から、報知動作の制御が可能です。「すべて報知」か「2 点以上報知」のいずれかに設定できます。
すべて報知 (地震観測点 1 点以上から)	気象庁から配信された電文を全て演算し、報知動作を行います。
2 点以上報知 (観測地点 2 点以上から)	気象庁から配信された電文の中から 2 点以上観測点情報が確認された電文を演算し、報知動作を行います。
訓練報	気象庁が行う訓練用の緊急地震速報を受信が可能です。
キャンセル報	気象庁が緊急地震速報を発報した後に誤報と判明して、気象庁が発報取り消しの電文を配信したことをキャンセル報といいます。そのキャンセルを受信できるようにします。
通過地震	大きな揺れである S 波（主要動）の予測猶予時間がマイナスの場合（到達済の地震）に対しても、報知動作させることが可能です。
ON の場合	予測猶予時間がマイナス 10 秒までの地震に対して報知動作を行います。報知音声はマイナス秒の場合であっても「地震 震度〇」となります。
OFF の場合	通過地震の報知動作は行いません。予測猶予時間が「プラス 1 秒」以上の地震にのみ報知動作を行います。

◆ 報知アナウンス・サウンド発報について

冒頭報知音の設定	無音・NHK・REIC の 3 種類から選択ができます。NHK チャイムは震度 5 弱以上の地震が発生した時のみ報知されるため、それ以下の震度 1～4 の地震に対しては弊社独自のチャイムが鳴ります。
冒頭報知アナウンスとサウンドの設定	発報アナウンス・サウンドの選択は以下の 3 タイプから選択可能です。①詳細 ②曖昧 1 ③曖昧 2 詳細については、「冒頭報知アナウンス形式」、「冒頭報知アナウンス発報例」を参照してください。
避難誘導アナウンスの設定	避難誘導アナウンスの繰り返し回数は 1 回から 10 回までの繰り返しが可能です。
避難誘導アナウンスの種類	避難誘導アナウンスの種類は 43 種類の中から選択できます。詳細については、「避難誘導アナウンス（43 種類）」を参照してください。

◆ 出力設定情報 受信機と外部機器(放送設備等)との運動により使用される場合に必要になる設定です。

AF 出力ディレー	接点出力 (DO) の出力タイミング (緊急地震速報の発報時) に対して、音声出力開始のタイミングを遅らせることができます。無し、1 秒から 1 までの設定が可能です。
タイミングチャート	<p>例) 2 秒選択の場合、地震発生後の 2 秒後から音声出力が開始します。</p> 
接点出力 (DO)	外部接点端子のある機器の制御に使用します。

設定情報

地震出力	地震報知に合わせて接点を出力します。
津波出力	津波報知に合わせて接点を出力します
DI 出力	接点入力に合わせて接点を出力します。
震度レベル	設定震度レベル以上の地震のみ、接点を出力します。 (使用しない / 震度 1 ~ 震度 7 / キャンセル報のみ出力) を選択できます。
津波出力	津波出力についての設定 (出力なし、出力する、津波解除・取消のみ出力) ※一つの DO から地震と津波を同時に出力させたい場合は設定情報を地震出力と津波出力両方を選択し、津波出力も出力するに設定してください。
出力時間	DO の動作時間設定であり、2 つの条件が選択出来ます。
発報時出力	地震アナウンスと同時に出力します。
発報後出力	カウントダウンが終わる時点から出力します。 ※詳細時間については、別紙【D1】の「DO 出力時間範囲」を参照してください。
ディレー設定	接点出力タイミングを遅らせることができます。※詳細時間については、別紙【D2】の「DO 出力ディレー時間範囲」を参照してください。
接点入力 (DI)	外部からの接点入力により制御をおこなう為に使用します。
クリア設定	外部接点入力端子 (DI1、DI2、DI3) から入力された信号を利用し、出力中の接点をクリアさせます。

連動設定	外部接点入力端子 (DI1、DI2、DI3) からトリガー設定 (1 点、2 点、3 点) 以上の接点入力があった場合、指定した接点出力ポート (DI1,2,3,4) から接点を出すことができます。	
津波設定	津波情報受信および受信地域を設定します。	
	津波注意報	予想される津波の高さが高いところで 0.2m 以上、1m 以下の場合であって、津波による災害の恐れがある場合
	津波警報	予想される津波の高さが 1m 超え、3m 以下の場合
	大津波警報	予想される津波の高さが高いところで 3m を超える場合
津波警報 / 注意報受信設定	津波警報・注意報の種類を設定します。	
	受信しない	津波情報に対して、端末は報知動作しません。
	津波注意報以上発報	津波注意報・津波警報・大津波警報に対して報知
	津波警報以上発報	津波警報・大津波警報に対して報知
	大津波警報のみ発報	大津波警報に対しての報知
津波警報 / 注意報受信地域	気象庁から決められた津波警報・注意報の発表地域です。機器の設定場所に一番近い海岸沿いを設定してください。 ※津波警報・注意報受信地域は、別紙【E】の「津波エリア地域コード一覧」を参照してください。	
警報設定	地震速報端末が設置された地域に、地震波が 2 点以上の地震観測点で観測され、強い揺れ (震度 5 弱以上または長周期地震動階級 3 以上) が予想される地域及び震度 4 が予想される地域に (全国を約 2 0 0 地域に分割) 発表される地震速報を発報する場合の設定です。地震警報の発報設定が ON の場合は、発報設定した震度に満たない場合も地震警報を報知します。	

◆ 冒頭報知アナウンス形式

気象庁震度階級 震度 1 から震度 7	猶予時間は最大読み上げ音声 50 秒
震度階級あいまい表現 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・震度 1～3 の場合「小さな揺れが」 ・震度 4～5 強の場合「物が倒れるぐらいの揺れが」 ・震度 6 弱～7 の場合「命にかかわるほどの揺れが」
猶予時間あいまい表現 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・0～19 秒の場合「すぐに来ます」 ・20～29 秒の場合「まもなく来ます」 ・30 秒以上の場合「もうまもなく来ます」
オリジナル報知音	<ul style="list-style-type: none"> ・震度 1～3 の場合「ビ」 ・震度 4～5 強の場合「ビ・ビ」 ・震度 6 弱～7 の場合「ビ・ビ・ビ」
REIC 報知音	・震度 / 時間にかかわらず同一
NHK 報知音	<ul style="list-style-type: none"> ・震度 1～4 ドリームチャイム ・震度 5 弱～7 NHK チャイム 訓練報を受信: 冒頭に「地震」の代わりに「配信テストです」が挿入されます。 TEST ボタン: 冒頭に「地震」の代わりに「動作確認テストです」が挿入されます。 ※猶予時間が 4 秒、3 秒、2 秒、1 秒と、報知される音声より短い場合でも全ての情報を報知します。

※猶予時間とは？…地震が端末設置場所まで到達する予測時間です。

◆ 冒頭報知アナウンス発報例

設定震度	設定段階	音声表現	開始音声・繰り返し音声	カウントダウン
1	震度 1～3	詳細	「地震 - 震度 3 - 19 秒後」	○
2			「地震警報 - 震度 3-19 秒後」	
3		あいまい 1	「地震 - 小さな揺れが - すぐに来ます」 + 「ビッ」	○
		あいまい 2	「地震 - すぐに来ます」 + 「ビッ」	×
4	震度 4～5 強	詳細	「地震 - 震度 4-29 秒後」	○
5 弱			「地震警報 - 震度 4-29 秒後」	
5 強		あいまい 1	「地震 - 物が倒れるぐらいの揺れが - まもなく来ます」 + 「ビッ、ビッ」	○
		あいまい 2	「地震 - まもなく来ます」 + 「ビッ、ビッ」	×
6 弱	震度 6 弱 ～7	詳細	「地震 - 震度 6 弱 -45 秒後」	○
6 強			「地震警報 - 震度 6 弱 -45 秒後」	
7		あいまい 1	「地震 - 命にかかわるほどの揺れが - まもなく来ます」+「ビッ、ビッ、ビッ」	○
		あいまい 2	「地震 - まもなく来ます」 + 「ビッ、ビッ、ビッ」	×

※NHKチャイムは震度5弱以上の地震が発生したときのみ報知される為、震度1～震度4まではオリジナルチャイムが鳴ります。

◆ 避難誘導アナウンス (43種類)

0	(無音)	22	周りを確認してください。
1	安全が確認されるまで外には出ないでください。	23	ガスの元栓を閉めてください。
2	安全な姿勢で身構えてください。	24	倒れやすい家具などから離れてください。
3	安全に備えてください。	25	落下物に注意してください。
4	安全確認のため、皆様一旦この場所から外へご退場いただきます。	26	上から落ちてくる物、倒れてくる物から身を守ってください。
5	身の安全を確保してください。	28	海岸沿いから離れてください。
6	揺れが収まるまで安全な場所にいてください。	29	震源が海底・海岸沿いの場合、津波が発生する可能性があります。
7	揺れが収まるまで身を守ってください。	30	皆様の安全に問題はありません。
8	揺れが収まってから火の始末をしてください。	31	皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。
9	揺れが来るまで、わずかな時間しかありません。	32	本日、催しを中止せざるを得ない事態となり、誠に申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。
11	強い揺れに備えてください。	33	指示が出るまで、そのまま待機してください。
12	落ち着いてください。	34	係員の誘導に従って、ゆっくりとご退場お願いいたします。
13	むやみに移動すると危険です。	35	前の人を押しついたりしないでください。
14	お座りになってお待ちください。	36	地盤が緩んでいる場所では、土砂災害に注意してください。
15	机の下に隠れて身を守ってください。	37	地滑り、土砂災害に注意してください。
16	テーブルや机の下に隠れてください。	38	かけ崩れに注意してください。
17	窓やドアを開け、避難経路を確保してください。	39	テレビやラジオの電源を入れ、災害情報を確認してください。
18	避難経路を確保してください。	40	テレビ・ラジオから最新の情報を入手してください。
19	指定の避難場所に避難してください。	41	気象庁ホームページから最新の情報を入手してください。
20	火の元の確認をしてください。	42	走らないでください。
21	倒れやすい物に近づかないでください。	43	余震に十分注意してください。

◆ DO 出力時間範囲

出力なし	700ミリ	5秒	12秒	19秒	26秒	33秒	40秒	47秒	54秒	120秒
100ミリ	800ミリ	6秒	13秒	20秒	27秒	34秒	41秒	48秒	55秒	180秒
200ミリ	900ミリ	7秒	14秒	21秒	28秒	35秒	42秒	49秒	56秒	240秒
300ミリ	1秒	8秒	15秒	22秒	29秒	36秒	43秒	50秒	57秒	300秒
400ミリ	2秒	9秒	16秒	23秒	30秒	37秒	44秒	51秒	58秒	連動
500ミリ	3秒	10秒	17秒	24秒	31秒	38秒	45秒	52秒	59秒	AF連動
600ミリ	4秒	11秒	18秒	25秒	32秒	39秒	46秒	53秒	60秒	

◆ DO 出力ディレイ時間範囲

ディレイなし	500ミリ	1秒	6秒
100ミリ	600ミリ	2秒	7秒
200ミリ	700ミリ	3秒	8秒
300ミリ	800ミリ	4秒	9秒
400ミリ	900ミリ	5秒	10秒

◆ 津波エリア情報地域コード一覧

地域コード	地域名	地域コード	地域名
100	北海道太平洋沿岸東部	520	兵庫県北部
101	北海道太平洋沿岸中部	521	兵庫県瀬戸内海沿岸
102	北海道太平洋沿岸西部	522	淡路島南部
110	北海道太平洋沿岸北部	530	和歌山県
111	北海道太平洋沿岸南部	540	鳥取県
120	オホーツク海沿岸	550	鳥取県出雲・石見
200	青森県日本海沿岸	551	隠岐
201	青森県太平洋沿岸	560	岡山県
202	陸奥湾	570	広島県
210	岩手県	580	徳島県
220	宮城県	590	香川県
230	秋田県	600	愛知県宇和海沿岸
240	山形県	601	愛媛県瀬戸内海沿岸
250	福島県	610	高知県
300	茨城県	700	山口県日本海沿岸
310	千葉県九十九里・外房	701	山口県瀬戸内海沿岸
311	千葉県内房	710	福岡県瀬戸内海沿岸
312	東京湾内湾	711	福岡県日本海沿岸
320	伊豆諸島	712	有明・八代海
321	小笠原諸島	720	佐賀県北部
330	相模湾・三浦半島	730	長崎県西方
340	新潟県上中下越	731	壱岐・対馬
341	佐渡	740	熊本県天草灘沿岸
350	富山県	750	大分県瀬戸内海沿岸
360	石川県能登	751	大分県豊後水道沿岸
361	石川県加賀	760	宮崎県
370	福井県	770	鹿児島県東部
380	静岡県	771	種子島・屋久島地方
390	愛知県外海	772	奄美群島・トカラ列島
391	伊勢・三河湾	773	鹿児島県西部
400	三重県南部	800	沖縄県本島地方
500	京都府	801	大東島地方
510	大阪府	802	宮古島・八重山地方

■ トラブルシューティング

電源を入れてもPOWERランプが消灯のままです。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本体正面の右側の電源ランプ (PWR:赤) が点灯しているかお確かめください。 2. 本機器付属の AC アダプターかお確かめください。 ※ 変圧機などを使用している場合、その機器の仕様をもう一度おたしかめください。
STATUSランプが点滅のままです。	<p>本機器はお客様のご使用のネットワーク環境からプロバイダーの通信回線を経由して弊社のサーバーへ接続されます。時により回線状況に不具合が生じる事で STATUS ランプが点滅になるときの場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源を入れ直してその変化をお確かめください。 2. LAN ケーブルが正しく接続されているかお確かめください。 3. ハブ、ルーター、インターネットプロバイダーの設定をお確かめください。 4. 使用しているネットワーク機器(ルーター-ハブ)の電源を入れ直してください。 5. ルーターセキュリティ設定の TCP「9001」「9003」ポートの制限を許可してください。 6. ルーターの DHCP 設定が有効になっているかお確かめください。 7. パソコンやネットワーク機器が機器と同じ IP アドレスを使っていないかお確かめください。 <p>※ 回線業者 (プロバイダー) からのメンテナンスなど回線障害があった場合、ルーターの再起動が必要なケースもあります。</p>
ボタンの操作ができません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源ランプ (PWR:赤) が点灯しているかお確かめください。 2. 電源ランプ (PWR:赤) が点滅の場合、電源を入れ直してください。 3. 状態が改善されない場合、ご購入の代理店にお問い合わせください。
その他	<p>その他の疑問点や機器の不具合がありましたらご購入された販売店にお問い合わせください。</p> <p>※お問い合わせの際には必ず、お客様が使用している機器の識別 ID (QAK から始まる 10 桁の英数字) をお伝えください。(本体裏面のリアパネルにも記載されています。)</p>
修理の受付	<p>本機器の不具合等による交換を希望の方は、ご連絡いただく前に、本書や弊社 WEB サイト (https://www.dpass.jp) を参照し、設置方法や設定等が正しいか再度ご確認ください。正しく設置や設定を行っているにもかかわらず不具合が改善されない場合は、ご購入された販売店までご連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保証期間中の場合 保証書の記載に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書裏面の保証規定をお読みください。 ● 保証期間後の場合 ご要望により有料で対応させていただきます。



ご注意 ～必ずお読みください～

- 本製品の修理を依頼される場合は、ご購入された販売店までお問い合わせください。
- 修理の際、本製品は工場出荷時の状態に戻ります。
- 上記は変更になる場合もありますので、お問い合わせ窓口 WEB サイト (<https://www.dpass.jp>) で最新の情報をご確認ください。

仕様

仕様

DPASS 緊急地震速報受信端末 本体 (親機) 《SH500-J》		
名 称	DPASS 緊急地震速報受信端末	
品 番	SH500-J	
本体外形寸法	幅 220mm × 高さ 69.2mm × 奥行 220mm (突起部除く)	
重 量	1.9kg	
電 源 電 圧	DC12V / AC アダプタ使用 (出力: DC12V / 800mA)	
消 費 電 力	待受 1.0W 最大 1.2W	
温 湿 度 条 件	操作時 0 ~ 40℃ / 非動作時 - 10 ~ 60℃ / 湿度 10 ~ 80%RH (結露なきこと)	
電文受信方式	IP v 4 インターネット常時接続環境での TCP/IP 方式	
出 力	外部制御出力 (DO 1/2/3/4)	無電圧ループ接点出力 (A 接点, B 接点 設定可能) 定格電圧: 38V / 最大ピーク電圧: 60V 定格電流: 1000mA / 最大ピーク電流: 1000mA
	内蔵音声出力 (SPEAKER)	2W
	外部音声出力 (LINE OUT)	RCA-MONO, 出力電圧 (最大): 2.5Vp-p (+ 4.2dBs), 出力インピーダンス: 10K Ω 不平衡
	信号出力 (DEBUG)	TTL レベル
入 力	電源 (POWER)	AC100V (50/60Hz) / DC12V-800 mA
	外部音声入力 (LINE IN)	RCA-MONO, 入力電圧 (最大): 1.2Vp-p, 入力インピーダンス: 33K Ω 不平衡
	ネットワーク (RJ-45)	10/100Base-T 配信サーバーとの通信ポート: 9001
	外部接点入力 (D I 1/2/3)	電圧ループ接点出力に対応。出力電圧: 5V, 出力電流: 5mA
機 能	発報震度レベル設定	気象庁震度階級 1~7の間で設定※接点出力 (DO) に限りキャンセル報
	発報表現設定	詳細/曖昧1 (カウントダウン有) / 曖昧2 (カウントダウン無)
	端末動作確認テスト	震度レベル 3段階 (3/5強/7 / 猶予時間 20秒固定) ループ
	告知アナウンス設定機能	地震発報後、避難誘導音声の設定可能
	津波注意報・警報受信機能	津波注意報・警報受信可否設定が可能
	端末スリープ設定機能	指定した時間帯に端末の受信機能を停止することが可能
	LINE OUT ディレイ機能	無し / 1秒 ~ 10秒 選択
	外部出力 (接点出力) 設定機能	出力のディレイ / 出力時間 / 出力方式設定が可能 ディレイ: 無し / 100ms ~ 900ms / 1秒 ~ 10秒 出力時間: 無し / 100ms ~ 900ms / 1秒 ~ 60秒 出力時間: 120秒 / 180秒 / 240秒 / 300秒 / 連続 / AF 連 出力方式: 発報時出力 / 発報後出力
表 示 / 操 作 音	赤 LED (POWER)	電源供給状態およびハードウェア接続状態の確認
	緑 LED (STATUS)	ネットワーク接続状態および電文受信の確認
	ブザー	機器稼働確認音
接 続 コネクタ	電 源	外径: 6mm / 内径: 2mm
	LINE OUT	RCA ピンジャック
	LINE IN	RCA ピンジャック
	DG-SERIAL	Φ 3.5 4 極ジャック
	RS-232C	D-SUB 9PIN
	DO	スクリューレス 3.5mm ピッチ
DI	スクリューレス 3.5mm ピッチ	

■ 本書について

1. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一不備な点や誤りなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、弊社に無断で使用できません。
4. 本製品の仕様、価格、外見などは予告なく変更することがあります。
5. 本製品は、日本国内での使用を前提に設計したものです。海外では使用しないでください。本書に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

NO	発行年月日	版数	記載変更内容
1	2014年06月19日	初版 (V1.00)	初版発行
2	2016年07月	第2版 (V1.01)	内容変更
3	2023年02月	第3版 (V1.02)	地震警報への長周期地震動階級3以上の追加
4			

開発製造元・配信業者

株式会社ドリームウェア

URL <https://www.dpass.jp>

E-mail 1nf0@dpass.jp(イチエヌエフゼロ)

(平日10:00~17:00※土・日・祝日・年末年始除く)